



NACS-J 生物多様性の道プロジェクト

フォーラム

「生物多様性おきなわ戦略で見る沖縄の未来」



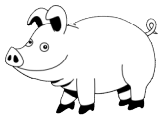
©小橋川共男

日時 : 2014 年 1 月 18 日 (土) 13:15~16:30
場所 : 船員会館 (那覇市前島 3-25-50 TEL 098-868-2775)

共催 : 日本自然保護協会 (NACS-J)、沖縄・生物多様性市民ネットワーク (沖縄 BD)
後援 : 沖縄環境ネットワーク、沖縄県サンゴ礁推進協議会、IUCN-J、
日本サンゴ礁学会保全委員会、環境省那覇自然環境事務所 (予定)



*このフォーラムは、平成 23 年度独立行政法人環境保全機構地球環境基金の助成を受けて開催されます。



フォーラム「生物多様性おきなわ戦略で見る沖縄の未来」



昨年夏に、市民、行政、研究者等が対話しながら作ってきた生物多様性地域戦略「生物多様性おきなわ戦略」が完成しました。

今回のフォーラムでは地域戦略策定を担当した沖縄県自然保護課や策定検討委員のメンバーにお話いただき、策定にあたり乗り越えた困難や今後の展望や課題について披露いただきます。

後半のパネルディスカッションでは、今後どのように生物多様性おきなわ戦略を活用し、沖縄の豊かな自然の恵みや文化を守り育て、次世代へ引き継いでいくのか、市民にできることや世界自然遺産登録についてなど、みなさまとともに考えます。

●生物多様性おきなわ戦略の冊子は以下からダウンロードできます

http://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizenhogo/hogo/bd_okinawa_senryaku.html



<プログラム>

第1部：

13:15 開催・司会進行（日本自然保護協会・安部真理子）
挨拶：環境省那覇自然環境事務所（次長・曾宮和夫）

講演（各20分）：

- (1) 「地域戦略を策定して～行政の立場から～」（沖縄県自然保護課・富永千尋）
- (2) 「地域戦略策定を通じて～委員として～」（沖縄大学・桜井国俊）
- (3) 「地域戦略策定を経験して～市民団体代表の立場から～」（沖縄 BD・吉川秀樹）
- (4) 「愛知ターゲットと沖縄のサンゴ礁の海」（日本自然保護協会・安部真理子）



15:10 第2部：パネルディスカッション

パネルディスカッションコーディネーター：河村雅美（沖縄 BD）

コメンテーター：中野義勝（沖縄県サンゴ礁保全推進協議会/琉球大学）

花井正光（沖縄エコツーリズム推進協議会）

宮城秋乃（日本鱗翅学会自然保護委員）

16:25 閉会あいさつ（沖縄 BD・吉川秀樹）

16:30 終了



講演者 プロフィール



◆首宮 和夫（そみや かずお） 環境省那覇自然環境事務所次長

環境科学、生物圏科学専攻（生態学研究室）。1993 年、環境庁（当時）入庁。環境省本省では計画課、環境影響審査室、野生生物課等に勤務。また、在ブラジル日本国大使館、鹿児島県庁に出向。現地事務所では利尻礼文サロベツ、富士箱根伊豆、南アルプス、中部山岳等の各国立公園を担当。2013 年 4 月より現職。

◆富永千尋（とみなが ちひろ） 沖縄県自然保護課課長

沖縄生まれ、沖縄育ち。琉球大学理学部大学院にて海洋学を専攻する。沖縄の海と関わる仕事を目指し、卒業後、沖縄県に就職、農林水産部漁政課、企画部科学技術振興課研究評価班長、観光商工部新産業振興課技術支援班長、産業政策課副参事を経て、環境生活部自然保護課長に就任する。1993 年には沖縄県人材育成 財団の援助で沿岸域管理（CZM）をテーマに米国留学の機会を得るなど、海と人との関わりに興味を持っている。

◆桜井国俊（さくらい くにとし） 沖縄大学教授

静岡県生まれ。東京大学工学部都市工学科において、水問題、廃棄物問題を中心に環境工学を学ぶ。工学博士（東京大学）。WHO アメリカ地域事務所環境専門官、JICA 国際協力専門員、東京大学客員教授を経て 2000 年から沖縄大学教授。沖縄県環境審議会会長、沖縄大学学長などを歴任。途上国環境問題、環境アセスメント、基地環境問題などを専門とする。素晴らしい生物多様性を生かした沖縄の維持可能な発展にとりわけ大きな関心を抱いている。環境 NGO の沖縄環境ネットワークの世話人を務める。

◆吉川 秀樹（よしかわ ひでき） 沖縄・生物多様性市民ネットワーク、大学非常勤講師

名護市出身。アメリカとカナダの大学、大学院で人類学を学ぶ。北タイでフィールドワークを行い、国家、民族、開発の関係について研究する。1999 年に沖縄に戻り、米軍基地と環境の問題に「市民」の立場から取り組み始める。

現在、沖縄・生物多様性市民ネットワークのメンバー、ジュゴン保護キャンペーンセンターの国際担当として活動。沖縄の基地・環境問題を通して「市民社会」の実践と研究を目指す。

◆河村 雅美（かわむら まさみ） 沖縄・生物多様性市民ネットワークディレクター

博士（社会学）。琉球大学・沖縄国際大学非常勤講師。IUCN 生態系管理委員会委員。生物多様性条約アライアンスメンバー。国連生物多様性 10 年市民ネットワーク企画提言委員。2009 年より沖縄・生物多様性市民ネットワークで活動。現在は枯れ葉剤問題、沖縄市サッカー場の汚染問題などに関わる。

「政治的」問題と環境問題の関係、環境問題におけるコミュニケーションのあり方についてが現在取り組んでいるテーマ。

◆中野義勝（なかの よしかつ）

琉球大学／沖縄県サンゴ礁保全推進協議会会長／日本サンゴ礁学会サンゴ礁保全委員会委員長

琉球大学大学院理工学研究科生物学専攻修了（理学修士）。サンゴの生物学とサンゴ礁の生態学、人とサンゴ礁の関わりについての理解とその展開として環境教育などを通してサンゴ礁保全に取り組んでいる。琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設技術専門職員。



表紙のイラストはしかたに自然案内、他のイラストは以下のサイトからお借りしました
<http://www.ohana.sakura.ne.jp/zenkoku/zenkoutext/47okinawa.htm>
<http://www.wanpug.com/illust138.html>

◆花井 正光（はない まさみつ） 沖縄県エコツーリズム推進協議会会長

文化庁で四半世紀余り記念物保護行政に従事した後、琉球大学観光産業科学部教授を経て、2010年以降、NPO 法人沖縄エコツーリズム推進協議会で、沖縄固有の自然と文化の保全と持続可能な利用の仕組みづくりに関心をよせ普及活動に取り組んでいる。保全生物学、文化財保全学が専門。

◆宮城秋乃（みやぎあきの） 日本鱗翅学会自然保護委員

沖縄県内の昆虫、主に森林性のチョウの生態を研究。希少種を調査することによってその地域の自然環境を守ることを目的に活動する。昆虫観察会など昆虫を楽しむ機会を作り自然の大切さをアピール。ブログ「アキノ隊員の鱗翅体験」にて日々観察した昆虫の生態や県内の環境問題について発信中。うるま市立海の文化資料館所属昆虫研究員。

◆安部真理子（あべ まりこ）日本自然保護協会 保護・研究部

大学、大学院にて生物学と生化学を専攻し、WWFジャパンに8年間勤務。オーストラリアのジェームズクック大学院修士課程に留学し、続いて琉球大学博士課程にてアザミサンゴの多様性に関する研究で博士号（理学）を取得。1997年に日本国内でのリーフチェック立ち上げに関わった一人であり、以来コーディネーターをつとめている。沖縄リーフチェック研究会会長、日本サンゴ礁学会評議員、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会理事。2010年4月より日本自然保護協会にて沖縄の問題や日本の沿岸の問題を担当している。



©小橋川共男



©宮城秋乃



昨年白化したサンゴ群集 ©有光智彦



食べて守ろう 生物多様性

泡瀬干潟 ウミエラ館 <http://umierakan.ti-da.net/>